この平均な少年に主人公補正を！

零王

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

何をやってもすべて平均、趣味も特徴もこれといってない少年「鈴木　雄太」。

偶然死んでしまった彼は、最強の能力？「主人公補正」を手に入れた。

この異世界で佐藤和真とその仲間達で魔王討伐を目指そう！

目次

プロローグ ―― 1
1話 ―― 4

プロローグ

「ようこそ死後の世界へ　鈴木雄太さん　　あなたは亡くなってしまったのです」

　学校の授業中に居眠りしていた俺に、突然そんな言葉をかけられた。

「…なんなんですか？　人が気分よく眠ってるのに……　寝かせて下さいよ…」

「!?　いや…　あなたは死んだのですよ!?　普通もう少し驚きませんか!??」

「俺が死んだって…どういうことだよ……授業中に死ぬ人がどこにいるんだっての」

「…あなたは寝ぼけて机に頭を強打して死んでしまいました…残念ながら」

　ああ、先生に一回起こされたときか。　ふらふらしてたらなんか激しい痛みと心臓の鼓動が早くなったからなんだろうと……完全に死んでるなオイ。

「あの…取り乱したりしないのですね……　こちらとしては好都合ですけれど」

「まあな　なんの未練もないし退屈な人生だったから後悔はしてないさ」

　俺は何の取柄もない平凡な人生を歩んでいた。特に秀でた才能もない、だが特に苦手なものもない。

　とある変態殺人鬼みたいな感じだ。　あちらと違って才能を隠してはいないけど。

「それで　一体俺はどうなるんだ？」

「あなたには　３つの選択肢があります　１つは天国にいきおじいちゃんのような生活をするか」

　３つ？　こういうのは天国か…それとも日本で新しく転生か・・・みたいな２つじゃなくて？

「１つは日本に転生すること　そして最後は・・・

『記憶と肉体をそのままに　異世界に転生して　魔王を討伐すること』　あなたがもし魔王を打ち倒すことができれば　神々からの褒美として1つだけ願いを叶えてあげます」
　欲望に忠実な俺は深く考えずに…
「じゃあそれで」
「即答!?　決断が早いねキミ!!」
　誰だってそういう反応をするだろう。願いは沢山あるからな。
「……　まあ　いいとして　あなたには勇者になって欲しいのですから　1つだけチート級の装備や能力を授けることになっているのですよ」
　予想どうり定番のパターンだな…　どんなものがあるのだろう。
「さあ　この中から選んでください！」
　と　女神サマがいうと、目の前に様々な絵が描かれた紙が現れた。

…一通り見てみたがコレといってパッとしないものばっかりだった。
　宴会芸のスキルが最初から使えるって何だよ……　使えないだろそれ…
　ん…?　奥の目立たないところにも紙が落ちてるぞ?　コレも大したものではないだろう……
『主人公補正』
　なんか聞いたことあるな…　物語の主人公は負けイベントとかいうもの以外全て運よく勝つって奴だろ?　あ　説明が載ってんじゃんこれ。
　効果
・使用している間　常に自分にメリットのある出来事が最優先に行われる
　・特殊職業『主人公』になれる
　・使用者には恵まれた仲間と力が手に入る
　・異性にモテやすい
　！注意！

この能力は常に発動しており、また決して解除することができない。

…

異性にモテる…？

「これにしてもらっていいですか」

自分の決断は早かった。

自分の年齢＝彼女いない歴の俺に、これ以外必要とするものはないといえるだろう。

「では　魔方陣から出ないように気をつけてくださいね」

地面に大きな魔方陣が描かれる。そこから淡い光が漏れ出して、

「それでは改めて　鈴木雄太さん　あなたが魔王を討伐することを祈ってます！　新しい生活を頑張ってください！」

急に光が強くなり、自分は軽く目を瞑る…

1話

溢れる光が静まり、瞑ってた目を開くとそこは　大きな酒場　のような場所だった。
人の視線が痛い…　ああ　隣から話し声が聞こえる。
「おいアクア　あれって転生者じゃないか？」
と茶髪の青年が言うと…って　えっ？
その少年は昔の親友に顔が似て……
「カズマ!?　カズマじゃないか？どうしてここにいるんだ!?」
「おまっ…ユウタかよ!!久しぶりだな!!」
…異世界で親友に逢うとは……主人公補正か…
「どうしたんですか？カズマ　急に騒ぎ出して…」
と後ろから小学生のような顔立ちの整った可愛いお嬢ちゃんが出てきた。
…まさか…お前……
「……カズマ　お前はロリコンだったのか…」
「ちげえよ！パーティのメンバーだよ!!」
「おい今誰のことを言ったのか聞こうじゃあないか」
とお嬢ちゃんが目を紅に光らせてそんなことを言ってくる。
正直言ってめちゃくちゃ怖い　今すぐ逃げ出したい…
「すまん！気に障ったのなら許してくれ！」
「…まあいいでしょう　私は寛大ですから」
といいながらドヤ顔をしてくる。ああ、可愛いなあ…。
「ところでお前冒険者になるんだろう？　登録手数料あんのか？」
…？登録手数料…だと…　この世界は冒険者になるだけでも金とるのか…
意外と現実的な世界だな…ここ。
「すまない　金を貸してくれないか？　後で返すから…」
「本当だろうな？　…まあ信用できるやつだからなお前は」
といって銀貨を何枚か貸してくれた。多分カズマがいなかったら詰んでただろうな絶対。

カズマに言われたとうりにカウンターに向かった。冒険者になりたいといえばいいのかな？
「あの　すいません　冒険者になりたいのですが…」
「ヒャイッ!?……す…すみません／／／　それでは登録手数料７００エリス頂きます」
？…どうしたんだろう…顔が真っ赤になっている…しかもカズマは１０００エリス必要っていってなかったけ？
まあ言葉に甘えて７００エリスでいいか。
「は…はい　それではこの魔法具に手をあてればあなたの潜在能力が分かります　潜在能力によってなれる職業が違いますよ。」
俺の前に出された魔法具に手を当てるとレーザーのようなものでカードに能力が印刷されていった。すごいな異世界の技術って。
「はい　もう大丈夫ですよー　スズキユウタさんですか　素敵な名前ですね！　能力は…　はっ!?　はあああああ!?何なの？この潜在能力は!?　全て表示できないほど高いですよ…欠点がひとつもないなんて……何者なんですか!?あなた！」
受付のお姉さんが大声を上げる。すると、同時にギルドの中も騒ぎ出した。
やっぱ主人公といえばコレだね！
「あなたのレベルになると全ての最上位職である『主人公』になれますよ！様々な職業の秀でた部分を初めから覚えて　かつ魔力減少２５％ダウンの特典付きです！」
「んじゃあそれがいいのかな？　お姉さんに任せるよ」
「分かりました！ユウタさん！　あなたの今後の活躍に期待しています!!」
お姉さんは頬を染めながら笑顔でそういってくれた。